

語り合う文学教育

2011年度・第9号 12月16日

みんなで
いっしょに

立ちどまって 考えましょう！

大阪で起こっていることについてです。

首長選びはそれぞれの考えがあるでしょうが、わたし（橋本）が驚いたのは、投票前の世論調査で、例の橋下教育条例案の支持率が6割を超えていたことです。

条例案の詳しい内容を読まずに、マスコミが橋下サイドからたれ流し続けている情報のみで感覚的に判断している人もいるのでしょうか。しかし、一方では「うちの学校の先生の半分ぐらいはクビにしたい」と言う市民も少なくないと聞きます。

大阪だけのことではありません。三重でも、毎日のように「あの先生をやめさせろ」と電話をかけてくる事例がいくつかあります。京都では、授業参観日に担任を非難する文書を印刷してきて教室前に置いたというできごとがありました。わたしがびっくりしたのは、校長がそのことになすすべを持たない、全く何もしなかったことです。各地で、子どもに教員のあらさがしをさせ、毎日記録する保護者の話をよく聞きます。

ふつうの先生が、歩いていて大きなドングリを見つけたら子どもたちにも見せてやろうとハンカチに包み込む、本屋でおもしろい絵本を見たら明日読み聞かせようと買って帰る、そんなふつうの先生たちが、どうしてこのように攻撃され、傷つけられるのか。

本来、一番の共同の相手であるべき保護者・地域住民と教員が、なぜこのように向きあわされ、分断されているのか、それを仕組んでいる勢力は何なのか。

わたしにはまだ全体の構図が見えてきません。忙しい毎日ですが、立ちどまって、みんなで考える時だと思います。ご意見をお寄せ下さい。

例会報告です

☆11月12日・三重例会 原田聡子さん「いちねんせいのうた」 参加は7名でした

前回教材文を同封しました。みなさん、この教材で授業になるのかと思われたんじゃないですか。わたしはそう感じてしまいました。

いちねんせいの うた

あおい そらの こくばんに
なに かこう

うでを のばし
ちからを こめて
まっすぐ
いちねんせいの ー

ぼくも かく
わたしも かく
いちねんせいの ー
いちばん はじめの ー

おひさま みる
かぜが ふく

これだけの教材です。教科書の位置づけはおそらく漢字の初出です。光村の教科書ではこの教材で初めて漢字「一」が出てきます。

しかし、原田さんはこの教材で三時間の授業を組みました。教室の黒板が、この授業時は真

っ青な空になりました。子どもたちのことばもどんどんひろがりました。

そのとりくみは、『語り合う文学教育』第10号に載ります。お楽しみに。

原田さんのクラスの後日談です。

同じ作者（中川李枝子）の「くじらぐも」を読んだときに、こういった子がいたそうです。けいたさんです。

ぼくは、つぶやく。あぶない。こんなつくりばなし ぼくは ぜったい信じない。

以下は原田さん自身に語ってもらいましょう。

なかなかストレートな感想ではないですか。数年前に担任した六年生が「どうしてたべてもないのに（やまなしが）あまいってわかるんだろう」とまきにつぶやくような感想を残したのを思い出します。あの六年生は、一年生の時のこのつぶやきを六年生までずっと心の中に持ち続けていってしまったのかなと思いました。

どのクラスにも、少数ですが、これをまともに心の中に疑問としてもち、心をファンタジーに乗せてとばすことのできない子がいるように思うのです。

原田さんは、けいたさんの感想をクラスみんなに紹介しました。原田さんの予想を裏切って、大多数の子が同感したそうです。

- ・雲がしゃべるわけないから信じない。
- ・あぶないから、ぼくは乗らない。
- ・風がふいたら、雲にあながあくからあぶない。
- ・雲は水だから、乗れるなんて信じない。
- ・火山におちたらこわい。から信じません。

その大多数に対抗して、信じると言った子が四人ほどでしたように思います。

- ・夢で本当に見たから信じる。

- ・楽しいから信じる。
- ・本当にくじらに乗ってみたいから信じる。
- ・はくちょう型のくもを見たから信じる。

ノートを読みながら、私は、自分の投げかけが、いかに一年生にそぐわない、当然そのような結果になる問題であったかを思いしらされて、暗澹たる気持ちになりました。その暗い思いの中できづいたのは、次のことです。

- 大人が言う「信じない」と違う。私が見落としたあぶないに意味がある。本当に乗ったことを想像するから乗れないという子がいる。
- お話は、信じるか信じないかで読むものではない。
- 信じないと言った子も嬉々としてこのお話を楽しむことができる。
- 科学が信じないものを芸術が描き、それが後の世に科学によって実現する例がいくつもある。

乗れるか乗れないかではなく、乗りたいでいい。

話せるか話せないかではなく、話したら楽しいでいい。

みんなでお話を楽しんじゃおう！

それでオッケーと聞き直ったのです。もっとも読めない子が文字を追ってみんなの速さについていけるまで待って（おかげで隣のクラスから大はば遅れ）、あらゆるバージョンで声に出してみんな読んで読みました。

信じない信じる、そんなことは関係なく、一年生はこのお話を乐しみます。読めるようになった喜びもあり、子どもたちはのりのりです。そこで、次の感想を紹介しました。

・ぼくは、空に急にあらわれるなんて、ぜったい信じません。だけどほんとに出たらびっくりしそうです。たのしかったです。

そして、こう言いました。

「これは、けいたさんが言うように作り話だよ。だから、本当のことかどうかわからないでもいい。だってお話なんだから。」

「雲には乗れないよ。たぶん今はね。もっと未来には本当に乗れるかもしれないけどね。でもね、

雲にのれたら楽しくない？ 乗ってみたいよね。今でも乗れる方法があるんだよ。今すぐ雲に。」

「……」

「夢で？」

「そうだね。夢でも乗れる。それからお話の中。お話の中では、うさぎさんもたぬきさんも、雲のくじらもお話できるし、雲にだって乗れるよ。」

子どもたちは笑顔を見せてくれました。

けいたさんの最後の感想は

・ぼくは、ほんとにうみにすんでいたあおいくじらがしんでんしになったくじらがのせてくれたとおもいますもしかしたらみんなはあのくじらがいきてたときみんなわのったことがあるのがたのしかったのでくじらはわすれなかったのでまたおもいだしてとねがて（願って）きたとおもいます。

「こんなつくりばなし」のニュアンスからずいぶん離れて、自分自身がつくりばなしを作り上げています。

けいたさんは変わったのでしょうか。

私は、そうではないと思います。けいたさんの中の発達のアンバランスさの極端なはしとはしが現れただけなのではないかと思っています。

大人をおどろかせる〇〇はかせの部分と、ごくごく幼い想像の世界にいる自分のふたつです。

前の部分は、難しい言葉は知っているんだけど、本当に分かっているわけではない。

後ろの部分は、本来の自分なんだけれども、自分自身は分かっている部分です。

一学期、彼はそのアンバランスに加えて、学校という新しい場への適応に困り、登校をしぶっていました。今、友だちができて、自分の幼い部分も表現できるようになり、寝坊しても自分の足で歩いて登校できるようになっています。授業も、学習用具を出すことさえできず支援学級へ行きたがっていたのが、すっかりみんなと学習できるようになりました。

けいたさんをまるごと受けとめ、向き合っている姿勢に敬服します。この中でこそ、けい

たさんは自分の成長発達の道を歩みだせたんだと思います。

☆ 11月19日（土） 奈良教育大学附属小学校研究会

たくさんの参加がありました。語り合う会の会員のみなさんもたくさん来てくださいました。入澤佳菜さんの「注文の多い料理店」、鈴木啓史さんの「ごんぎつね」、菱井一宏さんの「あなぐまのもちよりパーティ」の授業が公開されました。

☆ 12月10日（土）奈良例会

奈良教育大学附属小学校の研究会のうち、入澤さんの実践を検討しました。教材の〈読み〉、教材解釈の問題、子どもたちにつけたい力など、これからの課題を中心に論議しました。

参加者は6名でした。

これからの予定

☆ 1月28日（土）三重例会

午後2時半～5時 三重大学教育学部4階国語教育ゼミ室
実践報告予定・望月靖子さん「かさこじぞう」

☆ 2月11日（土・祝日）奈良例会

午後2時半～5時 奈良教育大学附属小学校
内容は未定です。

☆ 3月3日（土）語り合う文学教育の会第10回大会

午後1時～5時 三重大学教育学部

石井順治先生の記念講演があります。
『語り合う文学教育』第10号を刊行します。

☆ 3月31日（土）三重民教連集会

午後1時～ アスト津 国語・作文などの分科会があります。

機関誌『語り合う文学教育』第10号

- I 語り合う文学教育の会 10年の歩み 藤原和好
- II 語り合う文学教育の会のこれから
 - ①会の実践に対する批評（提言・論文など・一人 4800字）
 - ②新たな可能性・これからの方向など 橋本博孝・守田庸一
- III 実践報告（今年度の実践報告から・一人 12000字）
- IV 特別論文
 - 田中実（講演記録）・林朝子（書教育からみた入門期のひらがな指導）
 - 魏敏（スイミー・横書き）・科研費研究の報告から（湯浅グループ）

上のような内容になります。すでに、何人かには原稿依頼をしてありますが、冬休みに書いてみようという方は、会員であれば自由に投稿できます。

締切は来年の1月15日にします。少しだけ延長しました。ただし、今回は編集の都合上、この日までに届かなければ掲載できません。個別に督促はしませんので、どうか執筆にかかってください。字数は目安です。

今のところ、Iの藤原先生、IIの①では青木照明先生、IVの田中実先生、林朝子先生の原稿が届いています。わたし（橋本）も苦しんでいる最中です。お願いしたみなさん、がんばりましょう。

◇語り合う文学教育の会会報◇ 文責＝橋本博孝

連絡先 514-8507 津市栗真町屋町 1577 三重大学教育学部

国語科教育研究室（橋本博孝）

メールアドレス hiro3614@edu.mie-u.ac.jp

電話 059-231-9210

年末は26・27日に日文協の合宿研が甲府であります。それが終われば、今年も終えられそうです。原稿を仕上げます。どうぞよいお年をお迎えください（橋本）。